

住職法話「阿弥陀仏の光明」

十一月同朋会より

近くにいるとわからない、外にいけば見えることがある、ということがあります。家族同士の会話でもいつも顔を合わせている両親に対しては言葉が強くなってしまっ、お互いの思いが伝わらなかつたりします。近い方が相手のことが見えなくなっていくのです。そのことを親鸞聖人は「無明」と言いました。一番近い人は自分自身。この私という明かりに物事を見ると近すぎて見えないから、仏法という明かりに出あってほしい。それが阿弥陀の十二光にあらわされています。和讃に「光暁かむらぬものはなし」という一節があります。真っ暗な闇の中、あかつきの光に少し私が照らされる。そうすると方向が定まる、ここに人がいたのだ、と気づかされる。そのことが仏法を歩いていく道に立つ喜びなのだということです。私たちは一人ではない、ともに仏教の教えを光として歩いていく人に出あえる喜びをこの言葉は教えてくれます。

今月のことば

長いトンネルは
ずうっと続くから
本当に出口が
あるんやろうか
と心配になる
でも、いつだって
ちやんとあるんや

原田大助詩画集『好きや
って：言わないくらい
好きやって』より。当時、
養護学校に通っていた
大助くんの言葉です。暗
くて先が見えない不安
や、出口があるんだらう
かと心配になる気持ち
を抱えた時、でも出口は
いつだってちやんとあ
るんだと力強く呼びか
けてくれているように
感じます。

真宗連合カレンダー



令和八年のカレンダー
を配布しています。
ご入用の方はお知らせ
ください。

十二月同朋会(第二土曜日)

十二月十二日

十二時～十二時 お齋(お食事)

十三時～十四時半 勤行・法話

お齋作りのお手伝いをしてくださいの方は
エプロンを持参のうえ十時に集合くだ
さい。(前日準備は十一時十三時から行
います。よろしく願います。)

一年の締めくくりの同朋会です。今年には報恩講にお齋(お食事)を作ることが叶いませんでした。そこで、令和七年最後の同朋会にて徳泉寺伝統のお齋を作り、同朋会員のみならずと一緒に行きたいと思
います。それに合わせて集合時間を一時間早めます。お食事終了後、勤行・法話となります。よろしく願います。

劇団ふたり

朗読会

令和7年12月10日(水)

13:30～15:00(13:00開場)

プログラム

- 1 紙芝居『注文の多い料理店』 宮沢賢治 作 (劇団ふたり)
- 2 絵本『きこえる?』はいじまのぶひこ 作 (坊守 関口裕子)
- 3 『ごちそうさま』食後の言葉より (住職 関口真爾)
- 4 『極楽急行』海音寺潮五郎 作 (劇団ふたり)

入場無料 予約不要

お寺と文学は相性がいい。ぜひお出掛けください。